

情報環境機構

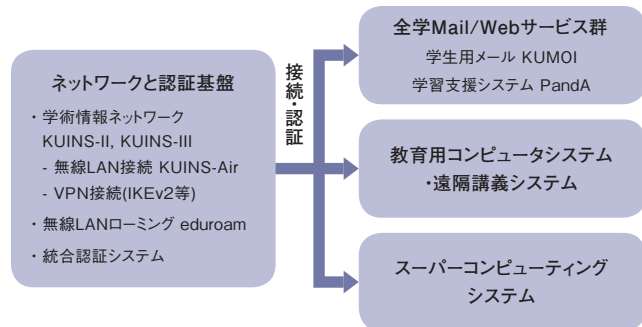
高度な安全性と利便性を備えた先端的情報環境の構築・運営により教育・研究をはじめとする京都大学の諸活動を支えています。

情報環境機構は学術情報メディアセンターと協力し、インターネット接続や学内の無線LAN(KUINS-Air)を運用する学術情報ネットワークサービス(KUINS)や、ECS-ID、ICカード学生証などの認証システム、全国共同利用のスーパーコンピューティングサービス、学生用の電子メールサービス KUMOI、日々の学習で利用する教育用コンピュータシステムや遠隔講義システム、学習支援サービス PandAなど、京都大学の教育・研究を強力に支援するITシステム・サービス群を提供しています。

その中でも、教育用コンピュータシステムはICTを活用した高度な学習を行う上で重要なシステムであり、京都大学に所属する多くの学生が使える開かれたシステムです。



情報環境機構の提供するITシステム・サービス群



教育用コンピュータシステム

固定型端末サービス

教育用コンピュータシステムでは、本学の学生・教職員が授業や自主学習のために利用できる固定型PC端末約1,200台を各学部の教室22か所及び附属図書館、吉田南総合図書館、学術情報メディアセンターに設置しています。附属図書館、吉田南総合図書館、学術情報メディアセンター南館のOSL(Open Space Laboratory)に設置されている固定型PC端末は、開室中であればいつでも自主学習に利用できます。これらの固定型PC端末には、基本ソフトウェア(OS)としてWindows10、アプリケーションソフトウェアとしてMicrosoft Office 2016、プログラミング、統計処理、数式処理など、大学での学修に必要なさまざまなソフトウェアが導入されており、授業と自主学習の総合的な情報環境を提供すると共に、電子メールやウェブを利用したコミュニケーションに利用できます。



仮想型端末サービス

教育用コンピュータシステムの固定型PC端末からだけではなく、本学の学生や教職員が所有している端末からネットワークを介して教育用コンピュータシステムのPC端末サービス(Windows10, Linux)を利用できます。固定型PC端末が設置されていない普通教室での共通のPC環境を利用する授業や授業時間以外での自宅や学内ネットから、教育用コンピュータシステムにおける総合的な情報環境が利用できます。

学術情報メディアセンター内ラーニング・コモンズ

京都大学は、各学生が大学に自分のノートPCやタブレット端末等を持参して学習活動や大学生活に活用する「BYOD(Bring Your Own Device)」を推進しています。学術情報メディアセンター南館にあるラーニング・コモンズは、持参したノートPCやタブレット端末等を使った自学自習や、グループ学習に利用することができます。持参した機器には、Wi-Fi(KUINS-Air)や卓上の電源が使用可能です。また、持参した機器を備品の大型ディスプレイに接続して、複数人が同じ画面を見ながらディスカッションすることもできます。部屋の中ではグループでの学習のために会話や机・いすのレイアウト変更を可能としています。ペットボトル・水筒などに入った飲料の持ち込みもかまいません。活発な議論を通じた学習が行われることを期待しています。



図書館

貴重な資料やデータベースなどの充実した学術情報と最新の施設・設備による学習・研究支援を行っています

「附属図書館」は学習・教育・研究支援機能を備え、学生や教職員をはじめ、学術情報を必要とする人々に幅広いサービスを提供しています。あわせて図書館を学習・研究に積極活用してもらうため、文献の入手方法やデータベースの利用方法をはじめとする各種講習会、新入生や留学生のためのオリエンテーションなどを実施しています。なお京都大学には附属図書館に約99万冊、全学で約709万冊の蔵書があります。創立より120年にわたる歴史をもつ附属図書館の蔵書には学習用図書その他、国宝「今昔物語集鈴鹿本」をはじめとする古文書や特殊文庫、全集系のコレクションなど、貴重な資料が数多くふくまれています。さらに電子ジャーナル(約9万タイトル)や電子ブック(約40万タイトル)、データベース(約100種類)なども提供しています。館内の施設・設備等は次の通りです。



ラーニング・commons

組替自由な机やホワイトボード、プロジェクター、電子黒板、大型ディスプレイ、無線LANなどを備え、約100座席があります。グループワークやディスカッション、プレゼンテーションや展示、イベントなどの多様な利用に対応しています。あわせて学習サポートデスクも設置されており、さまざまな分野の大学院生スタッフが、図書館の利用方法や学習に関する相談に対応しています。



その他の施設

- 共同研究室(5室) / グループでの共同研究や学習に利用します。少人数から20名程度まで利用できます。
- 研究個室(14室) / 大学院生と教員が研究・調査のために利用します。
- メディア・commons / 音楽や映画鑑賞、語学学習などに利用します。防音設備を施したメディア・シアターもあります。



学習室24



附属図書館の閉館後、朝まで勉強できる自学自習のスペースです。室内には「自学24」と飲食や談話ができる「なごみ」をあわせて140席あり、夜間のセキュリティにも配慮しています。無線LANも利用可能です。

これらの他、PCや電卓などの音の出る機器の利用を制限している「サイレント エリア」、約60台のパソコンがある「PCエリア」などがあります。館内は地下書庫をふくめ、全館で無線LANが利用できます。

- 他の図書館・図書室 / 京都大学には附属図書館の他、学部や研究所などの図書館・図書室が50施設ほどあります。

Point

蔵書検索システム KULINE

- 「KULINE(クライン)」は、京都大学が所蔵する図書や雑誌を検索するシステムです。必要とする資料が学内に約50施設ある図書館・図書室のどこにあるかを調べることができます。
- ケータイ版やスマートフォンアプリもあり、検索すれば電子ジャーナルや電子ブックを用いて本文まで辿り着けます。
- 他にも「論文検索」や「貴重資料画像」、「他大学検索」などの機能があります。
- 「MyKULINE」というサービスもあり、京大生がログインして使うWeb図書館として機能しています。パソコンから借りている図書の返却日を延長したり、予約をしたりといったことができ、文献の取寄せ申込みも行えます。

海外留学・国際交流

グローバルに活躍する人材を育むために 多様な海外留学プログラムを用意しています

京都大学では進捗し続ける社会の国際化に対応し、グローバルに活躍する人材を育むために、多様な海外留学プログラムを用意しています。実践的な外国語運用能力を身につけることはもちろん、幅広い視野・視点や多様な思考力を養う機会となる海外留学は、学生の間に取り組んでおきたいことのひとつです。



学生交流協定校への交換留学

京都大学に在籍しながら1学期から1年の間、海外の大学(学生交流協定校)に留学する制度です。その間、協定校の科目を履修することで単位が取得でき、研究に関する指導が受けられる場合もあります。また、協定校への出願手続きは京都大学を通じて行え、留学先の授業料を支払う必要はありません。なお京都大学は現在、36か国・地域に広がる約120校と大学間学生交流協定を締結しています。

学生交流協定校(2018年3月現在)

アジア

■ブルネイ/ブルネイ・ダルサラーム大学 ■中国/復旦大学 香港科技大学 香港大学 香港中文大学 南京大学 北京大学 清華大学 武漢大学 浙江大學 上海交通大學 西安交通大學 南開大學 香港理工大學 ■インド/バラナシ・ヒンドゥー大学 インド工科大学グワハチ校 ■インドネシア/インドネシア大学 バンドン工科大学 ガジャマダ大学 ■大韓民国/高麗大学校 慶北大学校 浦項工科大学 ソウル大学校 延世大学校 韓国科学技術院 ■マレーシア/マラヤ大学 マレーシア工科大学 ■フィリピン/フィリピン大学 ■シンガポール/シンガポール国立大学 南洋理工大學 ■台湾/国立台湾大学 国立清華大学 ■タイ/チュラロンコン大学 カセサート大学 タマサート大学 チェンマイ大学 ■ベトナム/ベトナム国家大学ハノイ校 フェエ大学 ダナン大学

中東

■イスラエル/テルアビブ大学 ■トルコ/コッチ大学

オセアニア

■オーストラリア/メルボルン大学 ニューサウスウェールズ大学 シドニー大学 オーストラリア国立大学 クイーンズランド大学 アデレード大学 ■ニュージーランド/オークランド大学 オタゴ大学

ヨーロッパ

■オーストリア/ウィーン大学 ■ベルギー/ルーバン・カトリック大学 ■フィンランド/ヘルシンキ大学 ■フランス/グルノーブル大学連合(以下5大学/グルノーブル・アルプ大学 グルノーブル理工科大学 グルノーブル政治学院 サヴォワ大学 グルノーブル国立建築大学) ストラスブル大学 パリ政治学院 エコール・ノルマル・シュペリウール ボルドー大学 パリ第7大学 パリ国立高等鉱業学校 フランス国立東洋言語文化研究所(INALCO) ■ドイツ/ベルリン自由大学 フンボルト大学 ミュンヘン大学 ハイデルベルク大学 ミュンヘン工科大学 ボン大学 ゲッティンゲン大学 カールスルーエ工科大学 アーヘン工科大学 ベルリン工科大学 ハンブルク大学 ケルン大学 ■アイスランド/アイスランド大学 ■アイルランド/アイルランド国立大学ダブリン校 ダブリン大学トリニティ・カレッジ ■イタリア/ミラノ工科大学 ヴェネツィア大学 ■オランダ/ライデン大学 コトレヒト大学 フローニンゲン大学 ■ノルウェー/ノルウェー科学技術大学 ■ルクセンブルク/ルクセンブルク大学 ■スペイン/バルセロナ大学 バルセロナ自治大学 ■スウェーデン/スウェーデン王立工科大学 ストックホルム大学 ウプサラ大学 ■スイス/ローザンヌ大学 チューリッヒ大学 スイス連邦工科大学ローザンヌ校 ■ポーランド/ヤギェウォ大学 ■ハンガリー/エトヴェシュ・ロラード大学 ■英国/マンチェスター大学 シェフィールド大学 プリズトル大学 パーミンガム大学 ニューキャッスル大学 エジンバラ大学 サウサンブトン大学 キングス・カレッジ・ロンドン グラスゴー大学 サセックス大学 リーズ大学 エクセター大学

北米

■カナダ/ケベック州大学学長校長協議会(以下11大学/ビショップス大学 ラヴァル大学 モントリオール理工科大学 シュルブルック大学 ケベック大学モントリオール校 ケベック大学リムスキー校 ケベック大学トロワ・リヴィエール校 ケベック大学アピチビ・テミスカミング校 ケベック大学ウタウエ校 ケベック大学州立行政学院 ケベック大学 高等工科大学) マギル大学 コンコルディア大学 トロント大学 ウォーターloo大学 プリティッシュコロンビア大学 ■アメリカ合衆国/ハワイ大学マノアキャンパス ベンシルベニア大学 ワシントン大学 ウィスコンシン大学マディソン テキサス大学オースティン校 ノートルダム大学

南米

■ブラジル/サンパウロ大学 ■メキシコ/グアダハラ大学 モンテレイ工科大学

交換留学 Q&A

Q1: 外国語力・学力はどのくらい必要ですか?

- 多くの協定校が講義等で使う言語の検定試験の成績を受入条件に定めています。
- また、学内での派遣候補者選考では、学業成績のより優れた者に協定校への出願権を与えることが原則となっています。

Q2: 交換留学の準備には どの程度の期間が必要ですか?

- 交換留学を希望する学生は、所属する学部・研究科を通じて学内選考用の申請書(日本語)を提出します。
- 但し申請書を作成・提出するには、事前に自身の専攻領域にあったプログラムや履修したい講義をもつ大学を見つける必要があります。
- 学内募集は例年2月と7月(二次募集)に行います(年度によって異なる場合があります)。おおむね出発の9か月〜1年10か月ほど前に学内で応募することになります。

Q3: 交換留学先で修得した単位は 京都大学で認定されますか?

- 留学先で修得した単位を本学で修得した単位として認める制度があります。

短期留学プログラム

京都大学では学生が国際性を養い、外国語運用能力を高める機会として、さまざまな短期留学プログラムを用意しています。その中にはグローバルに活躍する研究職もしくは専門職を育成することを目的に、世界のトップランクに位置づけられる大学で学術・研究のキャリアを積むプログラムもあります。なお、

短期留学の主な派遣先となる東アジアや東南アジア、英語圏では、プログラムの多くが本学授業期間外の8・9月や2・3月に設定されています。また、プログラムによっては滞在費や渡航費を京都大学が支援する場合があります。

※詳しくは京都大学のホームページ「教育・学生支援」を参照ください。

海外留学のための奨学金

[1] 海外留学支援制度(協定派遣)

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)が、京都大学と学生交流協定を締結している海外の大学へ協定に基づき派遣される学生や、本学が実施する各種海外留学プログラムに参加する学生に向けて奨学金を支給する制度です。この奨学金を受けることができるのは、本学の正規課程に在籍している学部生と大学院生(外国人留学生を除く)です。奨学金は派遣先地域により月額6万から10万円、派遣期間は8日以上1年以内です。採用人数が限られており、大学間学生交流協定に基づく留学者の場合、希望者の中から選考して受給者を決定します。その他の海外留学プログラムの場合、参加者募集の際に案内します。

[2] 官民協働海外留学支援制度

～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～

2020年までに我が国の学生の海外留学を倍増するという政府目標に基づき、官民が協力して海外留学を支援するために創設されたプログラムです。プログラムの特徴は、学生が立案・作成した留学計画の支援、「実践活動」をふくむ留学の支援、「日本再興戦略」など産業界からの意向をふまえた支援コースの設定、産業界の求める人材の選抜、支援企業数社による海外インターンシップ等の受入れ、留学の質を高めるための事前・事後研修、留学後のコミュニティの提供などです。

支援内容は①海外留学費用(奨学金・渡航費・授業料の一部)の給付、②留学の事前・事後研修の提供、③継続的な学習や交流の場となる留学生ネットワークの提供です。

募集コースには①理系および複合・融合系人材コース、②新興国コース、③世界トップレベル大学等コース、④多様性人材コースがあり、留学期間が28日以上2年以内(3カ月以上推奨)の計画が支援対象です。

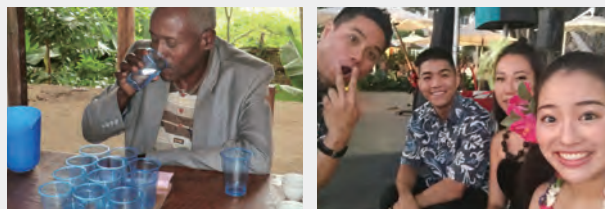
※詳しくは下記ウェブサイト参照ください。

<http://www.tobitate.mext.go.jp/>

[3] おもろチャレンジ

京都大学では「体験型海外渡航支援制度」として、本学卒業生の財界トップによる総長支援団体「鼎会」のプログラム「おもろチャレンジ」を行っています。学内の書類選考で選出された学生には、奨学金30万円(平成29年度実績)が支給されます。

※詳しくは12ページを参照ください。



[4] その他の奨学金

京都大学の学生を対象とする奨学金が募集された場合は本学ホームページで随時、紹介しています。また、日本学生支援機構(JASSO)にも海外留学に向けた奨学金があります。さらに同機構のホームページでは外国政府や地方自治体、民間団体からの海外留学向け奨学金が検索できるようになっています。

※詳しくは下記ウェブサイト参照ください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/>

<http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>

Topics

留学生ラウンジ「きずな」

留学生ラウンジ「きずな」は、京都大学に在籍する留学生の相互交流の促進、留学生と日本人学生や教職員との交流スペースです。館内には自主学習や語学交換などができるサロンをはじめ、日本語学習者の図書室などがあります。あわせて毎月イベントを開催し、交流のきっかけを提供しています。



読書室



月例イベント

※詳しくは右記ウェブサイト参照ください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/facilities/campus/kizuna>

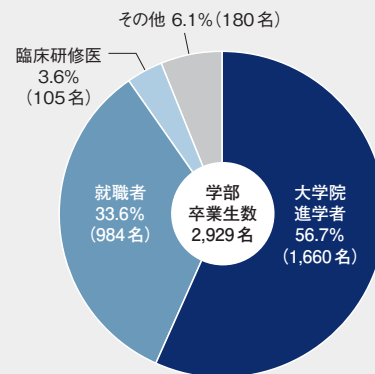
学部教育で身につけた知識や技能をさらに高度化し 次代を担う研究者・実務者をめざして学びます

京都大学の卒業生には、「自由の学風」によって培われた知性・感性・倫理性などを社会で活かすことが期待されています。学部卒業後の進路としては、就職か大学院進学が考えられますが、京都大学は大学院を充実させた研究型大学の特徴のあらわれとして、大学院への進学希望者が多いという傾向があります。年によっても異なりますが、例年約55%前後の卒業生が大学院に進学しています。

大学院への進学について

学部の卒業後、学部で身につけた知識・教養・技能を深めることをめざす場合、大学院進学を選ぶことになります。大学院の標準修業年限は「博士前期課程（修士課程）」の2年間、続く「博士後期課程（博士課程）」の3年間（課程区分を設けない一貫制博士課程は5年間）です。この間に定められた単位を修得し、必要な研究指導を受け、研究論文の審査と最終試験に合格すれば「修士」もしくは「博士」の学位が授与されます。また、いわゆる飛び級制度を認めている大学院では、指定の単位を優れた成績で取得した者（学部在籍3年以上）に入学を認め、それぞれの標準修業年数に満たなくても学位を授与する場合があります。なお学部と関連した大学院に進学するのが通常ですが、異なる分野の大学院に進学することも可能です。一般的に大学院には、学部より多種多様なバックグラウンドをもつ学生が多く集まり、多様性が増す傾向にあります。

■ 2017年度 学部卒業生の進路状況
(2018年5月1日現在)



多様に編成される京都大学の大学院

学部をもつ大学院

京都大学の10の学部は、それぞれが大学院につながっています。
※正確には大学院重点化が行われた現在、大学院が主たる組織であり、大学院が学部教育を提供しているということになります。

学部とつながる大学院には、総合人間学部と関連する人間・環境学研究科、文学研究科、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、理学研究科、医学研究科、薬学研究科、工学研究科、農学研究科があります。それぞれが学士課程（学部）の教育と連続し、高度な研究と教育を行っています。

独立研究科

京都大学には学部をもたない大学院課程、「独立研究科」が6つあります。エネルギー科学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、情報学研究科、生命科学研究科、総合生存学館（思修館）、地球環境学舎です。いずれの研究科も多様な学部の卒業生を受け入れ、複合的学域の創出・深化に携わる研究者や実務家の養成を主眼にした大学院教育を行っています。

専門職大学院

高度で専門的な職業能力をもつ実務家を養成する大学院です。現場で活躍するスペシャリストなども専任教員として迎え、現場の複雑な問題を解決するための知識・技能の獲得をめざした教育を行っています。京都大学では、医学研究科社会健康医学系専攻、法学研究科法曹養成専攻（法科大学院）、公共政策大学院、経営管理大学院、4つの専門職大学院を設置しています。

博士課程教育リーディングプログラム

文部科学省によるこの事業は、優秀な学生を広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへ導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集するといった産学官の参画を得ています。あわせて専門分野の枠をこえて博士課程の前期・後期を一貫し、世界に通用する質が保証された学位プログラムを構築・展開するための大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府にふさわしい大学院の形成を推進しています。京都大学では「京都大学大学院思修館」、「グローバル生存学大学院連携プログラム」、「充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム」、「デザイン学大学院連携プログラム」、「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」、5件のプログラムが採択されています。

Close-up | 大学院 総合生存学館（思修館）

京都大学は地球社会の課題を総合的に分析し、解決に導く方法論や思想、政策などを幅広く探究する「総合生存学」を進展させ、次代を担うグローバルリーダーの育成につながる大学院「総合生存学館（思修館）」を開設。テラーメイド型カリキュラム、研修施設の利用による対話とディベートによる熟議、武者修行・PBRなどの実践型教育カリキュラム、複数指導教員制度などの特色ある5年一貫制の博士課程を展開しています。



■各学部から大学院への進学

(●印はあくまでも進学先の例であり、進学の可否を示すものではありません)

	総合人間学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	農学部
文学研究科 文献文化学専攻 思想文化学専攻 歴史文化学専攻 行動文化学専攻 現代文化学専攻	●	●								
教育学研究科 教育科学専攻 臨床教育学専攻	●	●	●							
法学研究科 法政理論専攻 法曹養成専攻(法科大学院)	●	●		●						
経済学研究科 経済学専攻					●					
理学研究科 数学・数理解析専攻 物理学・宇宙物理学専攻 地球惑星科学専攻 化学専攻 生物科学専攻	●	●				●			●	●
医学研究科 医学専攻 医科学専攻 社会健康医学系専攻 人間健康科学系専攻	●					●	●	●		●
薬学研究科 薬科学専攻 薬学専攻 医薬創成情報科学専攻								●		
工学研究科 社会基盤工学専攻 都市社会工学専攻 都市環境工学専攻 建築学専攻 機械理工学専攻 マイクロエンジニアリング専攻 航空宇宙工学専攻 原子核工学専攻 材料工学専攻 電気工学専攻 電子工学専攻 材料化学専攻 物質エネルギー化学専攻 分子工学専攻 高分子化学専攻 合成・生物化学専攻 化学工学専攻	●					●			●	●
農学研究科 農学専攻 森林科学専攻 応用生命科学専攻 応用生物科学専攻 地域環境科学専攻 生物資源経済学専攻 食品生物科学専攻	●					●				●
人間・環境学研究科 共生人間学専攻 共生文明学専攻 相関環境学専攻	●	●		●	●	●	●		●	●
エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境科学専攻 エネルギー基礎科学専攻 エネルギー変換科学専攻 エネルギー応用科学専攻	●					●			●	●
アジア・アフリカ地域研究研究科 東南アジア地域研究専攻 アフリカ地域研究専攻 グローバル地域研究専攻	●	●	●	●						●
情報学研究科 知能情報学専攻 社会情報学専攻 先端数理科学専攻 数理工学専攻 システム科学専攻 通信情報システム専攻	●				●	●			●	●
生命科学研究科 統合生命科学専攻 高次生命科学専攻	●					●	●	●	●	●
総合生存学館(思修館) 総合生存学専攻		●	●	●	●	●		●	●	●
地球環境学舎 地球環境学専攻 環境マネジメント専攻	●	●	●	●	●	●			●	●
公共政策大学院 公共政策専攻	●			●	●					
経営管理大学院 経営科学専攻 経営管理専攻	●				●	●			●	

Close-up | 京都大学ジャパングートウェイ構想

文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」による「京都大学ジャパングートウェイ構想」では、京都大学が国際競争力をもつ分野を中心に、世界トップレベルの大学と大学間協定を締結し、共同科目の開設や論文の共同指導・査読などを行うと共に、国際共同学位プログラム「ジョイント／ダブルディグリープログラム」の開発を進めています。

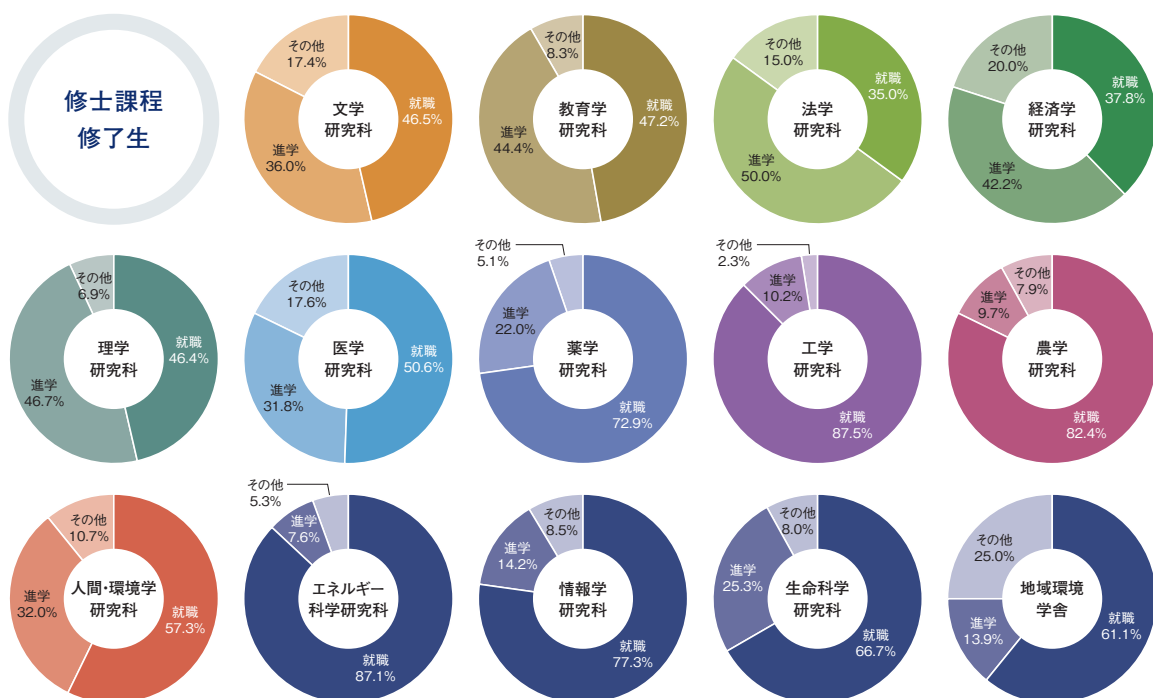
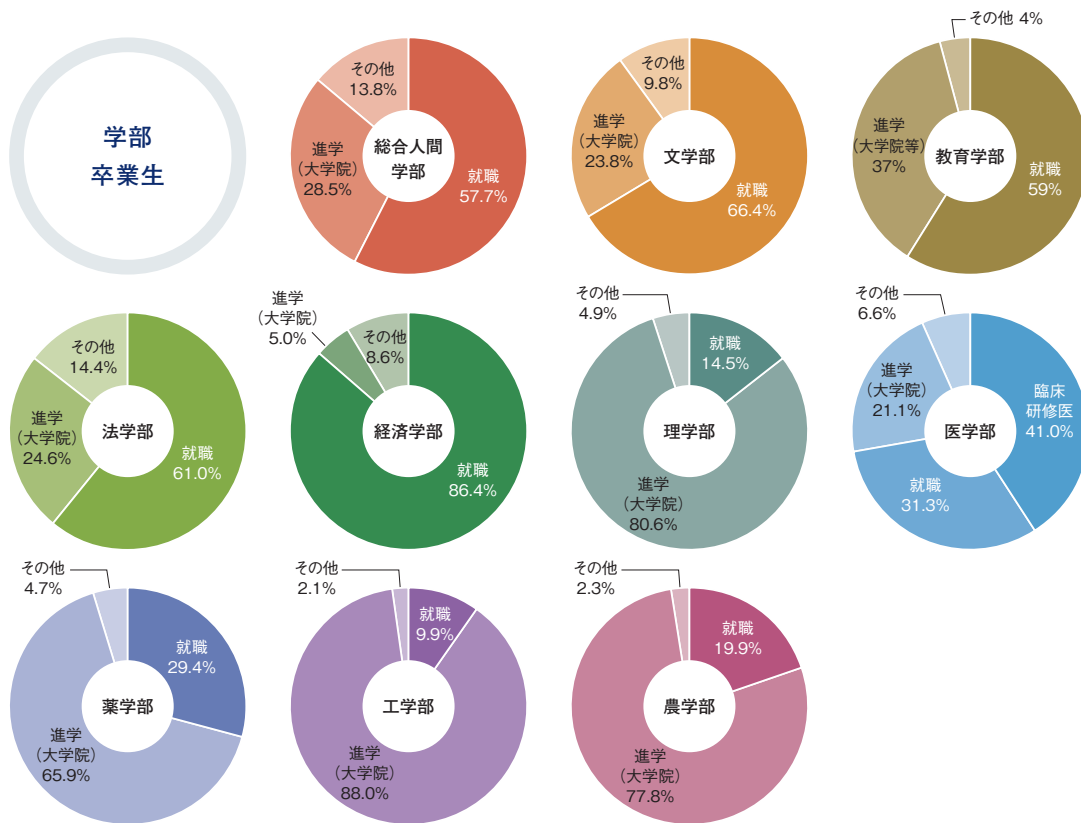
これにより、大学院教育の国際化、入試改革、外国人教員の雇用促進、留学生の受入れおよび学生の海外派遣の増加、英語による授業の増加などが進行しています。あわせて大学教育の多様な側面の国際化との相乗効果により、京都大学では研究・教育力のさらなる強化を図り、次代を担って世界で活躍するトップレベルの研究者の輩出につなげます。

卒業・修了後の進路

2017年度 卒業生 進路状況調査 (2018年5月1日現在)

京都大学では大学院への進学率が高く

修士課程・博士課程修了後の進路決定についても各研究科および全学組織で支援を行っています



卒業・修了後の進路

キャリア支援

開かれた窓から飛び立ち それぞれの場所で活躍するために さまざまな支援を行っています

京都大学の各学部を卒業した後の進路は民間企業はもとより、大学院への進学、公務員、起業など、多くの選択肢があります。京都大学では学生一人ひとりが学生生活を通じて将来を考え、選択するためにさまざまな支援を行なっています。就職活動についての情報提供や行事の開催、個別相談、経済支援等は各学部・研究科および学生総合支援センターキャリアサポートルームが行っています。



キャリアサポートルームが実施する主な就職支援プログラム

ガイダンス / セミナー

キャリアを考え、就職活動を進める上で知っておきたい基本的な心構えや知識を身につけるガイダンスと、一人ひとりの進捗や状況にあわせて受講するセミナーを開催しています。



〈2017年度に実施したガイダンス〉

- インターンシップガイダンス
- 就職活動キックオフガイダンス
- 公務員ガイダンス(事務系・技術系)

〈2017年度に実施したセミナー〉

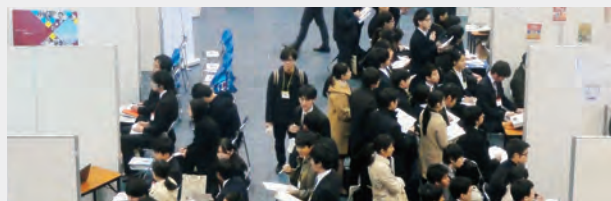
- 先輩シリーズ(全21回)
- 人事の本音(全4回)
- 採用選考ざっくりと理解、エントリーシートを作成してみよう、面接まるごと理解
- 実践セミナー：エントリーシートポイントチェック、模擬集団面接、模擬グループディスカッション
- 博士採用、実際のところ(全3回)

キャリアフォーラム(合同企業説明会)

京大生を採用したい企業・団体と学生・若手研究者が交流する場として「京都大学キャリアフォーラム」を開催しています。

〈2017年度に開催したキャリアフォーラム〉

- 京都大学夏のキャリアフォーラム(2017/7/10)
2018年3月卒業・修了生対象。23社が参加。
- 京都大学博士・ポスドク対象キャリアフォーラム(2018/2/10)
博士課程在籍者・博士号取得者が対象。39社が参加。
- 京都大学キャリアフォーラム(2018/3/1-3/3)
2019年3月卒業・修了生対象。3日間318社が参加。



その他、卒業生名簿や就職活動記録の公開、就活チューター制などさまざまな支援を行っています。

就職相談室

経験豊富な相談員が学生一人ひとりの就職や進路の相談に対応します。相談は一回45分、予約制です。

〈相談内容の例〉

- 大学院に進むか就職するかを迷っている
- 公務員が民間企業に就職するかを迷っている
- 自身に最適な企業を選ぶのに困っている
- エントリーシートや履歴書を添削して欲しい
- 面接の練習(模擬面接)をして欲しい
- 内定を得たが就職活動を続けるかどうかを迷っている
- 就職活動がうまくいかない



就職活動交通費助成

就職活動に必要な交通費の助成を行っています。乗車券の合計金額が2,000円をこえる旅程の場合に、片道1,000円を割り引いた価格で購入できる助成券を発行しています(詳しくは入学後ご確認ください)。

インターンシップ情報および求人情報の公開

〈インターンシップ〉大学単位で応募するインターンシップ情報は各学部・研究科を通してKULASIS(京都大学教務情報システム)で案内されます。個人で応募するインターンシップ情報はキャリアサポートルームのホームページで公開します。

〈求人〉大学推薦の求人や学部・研究科宛の求人票は各学部・研究科から案内されます。全学生対象の求人はキャリアサポートルームが運用する「求人情報検索システム(学内限定。キャリアサポートルームのホームページからアクセス)」で公開します。

博士就職支援

博士課程在籍者および博士号取得者を対象に個別相談、マッチング支援、セミナー、合同企業説明会を開催しています。

問い合わせ先

学生総合支援センター キャリアサポートルーム
TEL.075-753-2483(代表)

※詳しくは下記ウェブサイトを参照ください。
<http://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/career/>

男女共同参画推進センター

学生・教職員がジェンダーにとらわれることなく
自身の能力が発揮できる環境づくりに取り組んでいます

京都大学の自由な討論と多様性に開かれた学風をより発展・深化させ、人類の幸福に寄与する学問を発展させていくには、現代社会が課題のひとつとする「男女共同参画～ジェンダー平等」のモデルとなる大学づくりを進めていかなければなりません。こうした観点から、京都大学では以下の基本方針を確認し、男女共同参画のさらなる推進に取り組んでいます。

〈京都大学 男女共同参画 基本方針〉

- 男女共同参画の視点に立った教育・研究および就業の確立
- 教育・研究および就業と家庭生活との両立支援
- 男女共同参画に資する教育・学修・研究の充実
- 性差別への敏感な対応と迅速な解決
- 教職員・学生への啓発活動の推進
- 国・地方自治体、企業や市民セクターとの連携
- 国際的な連携の促進

〈組織図〉



男女共同参画推進センター

Topics

育児・介護に向きあう 研究者や教員へのサポート

育児あるいは介護と仕事の両立は、研究者・教員にとっても並大抵ではなく、少しのサポートさえあれば研究・教育を途切れさせず、学術や教育の発展に寄与できたケースも少なくありませんでした。こうした状況の改善に向けて、京都大学では女性研究者支援センターが設置された2006年から「研究・実験補助者雇用制度」を導入、育児や介護中の研究者・教員を対象に、研究・実験の補助者の雇用を支援しています。また、現在は対象を女性だけでなく男性にも、分野も理系・医系だけでなく人文・社会科学系にも広げ、全学的な制度としての運用・拡充を進めています。

情報提供

京都大学男女共同参画推進センターではホームページを通じて、さまざまな情報発信を行っています。また、ニュースレター「たちばな」や冊子「研究者になる!」、「未来に繋がる青いリボンのエトセトラ」なども発行しています。



京都大学男女共同参画推進センター
<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>



男女共同参画推進本部の設置について

京都大学では平成18年に科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」に採択され、男女共同参画推進事業が本格的に開始されました。この事業をより一層発展させるため、平成26年度に「男女共同参画推進本部」および「男女共同参画推進センター」が設置され、支援の対象も女性研究者のみならず男性をふくむ教職員・学生に広がってきています。また、平成27年4月にはアクション・プラン(2015～2020年度)を公表しました。「女性リーダーの育成」、「家庭生活との両立支援」、「次世代育成支援」という3つの目標を設定し、本学における男女共同参画の進化に努めています。

稲葉 力 理事・副学長



京都大学では男女共同参画の実現に向けて さまざまな取り組みをしています

京都大学優秀女性研究者賞「たちばな賞」

京都大学では平成20(2008)年に「たちばな賞」を創設、人文・社会科学または自然科学の各分野において、優れた研究成果を挙げた女性研究者(研究者部門・学生部門)を顕彰しています。その目的には後進の励みとなることが見据えられており、次代を担う優れた女性研究者の育成に結びつことが期待されています。



性差・ジェンダーに関する授業 / 平成30(2018)年度開講

全学共通科目のキャリア形成科目群と少人数教育科目群(ILASセミナー)に次の2科目を開講、学生たちに性差やジェンダーに関する正しい知識の提供と意識づけを行っています。

- 全学共通科目 人文・社会科学科目群「ジェンダー論」
担当教員 / 落合恵美子(文学研究科)
- 全学共通科目 ILASセミナー「ジェンダーとセクシュアリティ」
担当教員 / 田中雅一(人文科学研究所)
粟屋智就(医学研究科)
山内淳(生態学研究センター)



シンポジウム・フォーラム

男女共同参画の啓発や交流の促進をめざし、京都大学では「Women and Wish フォーラム」をはじめとするシンポジウムやトークイベントなどを開催しています。

〈女子高生～車座フォーラム〉

女子高校生をキャンパスに招いて語りあう「女子高生～車座フォーラム～京都大学を知ろう・研究者と語ろう」を開催。京都大学の研究者たちから、理系・文系それぞれにどんな研究分野があるのか、なぜ今この分野を選んだのか等々の話題を提供しています。あわせて大学卒業後の将来や子育てと研究の両立など、女子高生から寄せられる質問には、実体験に基づき回答しています。



保育へのサポート

京都大学には大学院や医学部附属病院をふくめ、子育てに向きあう教職員や学生が少なくありません。そのサポートとして、次のような取り組みを行っています。

〈病児保育室こもも〉

病児の子どものための保育室「こもも」を医学部附属病院に設置しています。教職員・学生が利用しています。



〈待機乳児の保育室〉

自治体保育所への入所を待つ乳児のための保育室を男女共同参画推進センターに設置しています。保護者に代わってシッターが子どもを迎えに行く「おもむかえ保育」も実施しています。

